

人文会ニュース

jinbunkai news

December 2023

NO. 145

1
15分で読む

平安時代の女性たち

京樂真帆子

16
書店現場から

共有書店マスタの活動、

これまで、これから

古澤 亘

21
編集者が語るこの叢書・このシリーズ 28

『完訳版』 第二次世界大戦』（全6巻）

三村 純



www.jinbunkai.com

慶應義塾大学出版会

<https://www.keio-up.co.jp/>

井筒俊彦 起源の哲学

安藤礼二著 井筒俊彦没後30年を迎える今、著者は20年に及ぶ研究と独自のインタビュー調査にもとづき、その謎に満ちた生涯と思想の全貌を描き切る、待望の井筒論。 ◎2,750 円

井筒俊彦 世界と対話する哲学

小野純一著 「言語とは何か」という問題意識を軸に、井筒哲学に通底する「自己探究」と「自由なる思考」への熱い希求を描き出す、心揺さぶる井筒論。 ◎2,970 円

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30【価格税込】
Tel 03-3451-3584 Fax 03-3451-3122

〈悪の凡庸さ〉を問い直す

職務に忠実なだけの「凡庸な役人」、上からの命令を伝達する「歯車」というイメージで広く受容されているアーレントの〈悪の凡庸さ〉概念。その妥当性や意義をめぐる、アーレント研究者とドイツ史研究者が真摯に語り合う。

万国の労働者、団結せよ！ マルクスと 第二インターナショナルの闘い

マルクスが主導した国際労働者協会（第二インターナショナル）の決議文や演説を編纂・解説

【著】マルテューロ・ムスト
【監訳】結城剛市
【定価】4,840円（税込）

【編著】田野大輔
小野寺拓也
【定価】2,640円（税込）

大月書店

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-16

TEL 03-3813-4651 HP otsukishoten.co.jp

「消えたい」

「もう終わりにしたい」

あなたへ

水島広子

イラスト・細川貂々

▶ 税込 1320 円

死にたいのではなく、こんなに生きづらい人生からおりたいのです――

日本の自殺死亡率はG7で最も高く、特に女性の自殺死亡率は世界で2番目ときわだつて高い。精神科医が生きづらさを和らげるヒントをやさしく説く。

知識コモンズとは何か

バブリックドメインからコミュニティ・ガバナンスへ
西川 開

税込 3,520 円

ガバナンスの制度設計の指針として活用される知識コモンズ研究の展開を通時的に論じる

データセキリティ法の迷走

情報漏洩はなぜなくなるらないのか？

税込 3,960 円

ダニエル・J・シロフ／ウッドロウ・ハーツォグ 著 小向太郎 監訳
法は情報漏洩に対処できていない！ 新たなデータセキリティ法を創造する。

アメリカ哲学入門

ナッシュ・スタンリック 著 藤井翔太 訳
アメリカ哲学の真髄とは何か。代表的な思想を時代にそって概観する定評ある入門書。

けい しょう

勁草書房

TEL 03-3814-6861
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1
<https://www.keisoshobo.co.jp>

平安時代の女性たち

毎年話題になることだが、世界経済フォーラムが発表

するジェンダーギャップ指数（以下、GIIと略す）における日本の順位は目も当てられない状況である。ジェンダー平等の達成度を測るこの指数において、二〇二三年六月二一日発表の順位は、一四六ヶ国中一二五位。ベベから数えた方が早い。スコア自体は僅かに低下しただけだが、前年度の一六位から順位を下げている。これは、ジェンダー平等社会構築に向けて、日本もそれなりに努力をしているつもりなのだが、それ以上に世界は進んでいる、ということだ。内閣府男女共同参画局のHPには、「教育」と「健康」の値は世界トップクラスだが、「政治」と「経済」の値が低い」とまとめられている。

こうした現状を踏まえて、本稿では、平安時代を振り

返ってみたい。

というのも、歴史教育の中で、平安時代は女性が活躍した時代として取り上げられるからである。

例えば、小学校の社会（歴史分野）の教科書には、以下のことが紹介されている。十二単という女性の服装文化が生み出されたこと。かな文字を使って、女性が多く文学作品を作ったこと。鎌倉時代に成立した小倉百人一首には、平安時代の女性の歌がたくさん取り上げられていること。そして、紫式部や清少納言の図像を挙げて、その事績について具体的な説明がなされている。

かつての教科書と比較すると、すべての時代において女性に関する記述が増えた点は評価すべきである。が、注意したいのは、平安時代のページで描かれるのは「貴

京樂 真帆子（滋賀県立大学教授）

族身分の女性」で、かつ、「文学作品など文化的要素」の紹介に限られていることである。現代日本で平等化が遅れている政治や経済などの分野において、平安時代の女性の状況はどうだったのか。そこを知りたくるのではないか。

残されている史料に限りや偏りがあるので、知りたいことすべてを明らかにすることはできないが（一番知りたい庶民女性については、語るだけの史料が充分にない）、GGIの指数と比べながら語っていききたい。

漢字を書かない女性

まずは、現代日本の得意分野である教育から。GGIの教育分野には「識字率」の項目がある。日本のスコアは、一で、「完全男女平等」として世界一位をキープしている。だからといって、「日本にはかな文字があるからだね」とか、「紫式部や清少納言が活躍したように、平安時代から女性の識字率は高いのだ」などと納得してはいけない。

そもそも、かな文字は女性用に開発された文字ではなく、かつ、女性だけが使った文字でもない。あの藤原道

長も、自身の日記『御堂関白記』の中でかな文字を使っている。男性も女性も、表音文字としてかな文字を便利に活用していた、ということである。

さらに言うと、かな文字が書ける女性は、貴族女性に限られていた。庶民女性には、かな文字を学ぶ教育機会がなかったのである。

文字を書けない人が自署の替わりに使うサインに、「^{みくし}画指」というものがある。右利きの人ならば自分の左手指（おそらく、人差し指）の長さで関節の位置を図示することで、サインの代わりにするのである。これは、（書き方にはバリエーションがあるが）東アジアで広く活用された方法である。李氏朝鮮で表音文字のハングルが発明された一五世紀以降に、奴婢身分にいる男性が画指をした文書を、私は韓国ソウル市内の博物館で見たことがある。教育格差は、性差だけではなく、身分差ともリンクする。また、ベトナムの山間の村での史料調査に同行した時、男性が画指する二〇世紀の文書を目にした。教育格差は、地域格差とも呼応する。

日本において、奈良時代には「藤三娘」と漢字で自署する藤原光明子（聖武天皇皇后）のような存在がある一方

で、男女ともに庶民は画指していた。が、平安時代になると男性は自署するようになり、画指は女性のものが多くなっていくことが指摘されている。平安時代では、庶民の教育機会にジェンダー格差が生じていることの証である。

前近代日本は身分制社会であり、支配者階級としての貴族身分が存在した。平安時代には、都との地理的な距離が文化情報の到達速度の差につながることもあった（もっとも、大宰府など政治・文化拠点は都の他にもあったが）。こうした時代において、ジェンダー格差を乗り越えたかに見える紫式部や清少納言は、非常に特異な存在なのである。

いや、彼女たちもジェンダー格差に悩まされていた。『紫式部日記』には、漢籍を読むことを批判する侍女がいたことが記されている。学問をひけらかしていると陰口をたたかれ、それを気に病んだ紫式部は「一」という文字も人前では書かないようにした、という。これを「活躍する女性の足を引っ張るのは、同じ女性なんだよね」などとまとめてはいけない。悪口を言った女性も又、本当は「壱」だって書けるのに、人前で「一」を書くこ

とを躊躇するような、ジェンダー・バイアスに悩む一人であったかもしれない。

これらのエピソードからは、漢文教育が男性の学問領域とされていたことだけではなく、貴族女性の内にも、漢籍に触れる機会に格差があったことを読み取らねばならない。つまり、女性の中にも分断が生じていた、ということだ。その中で、後世に名が残ったのは、ジェンダー・バイアスに立ち向かって漢籍を学んだ紫式部であり、清少納言であった。

ちなみに、GGIの教育分野には「高等教育就学率」という項目があり、日本のスコアは〇・九七六（完全平等が二で悪くはないが、世界第一〇五位である。大学に進学するかどうか、女性の内にまだ格差が残っている、という現実を日本は突きつけられている。紫式部ならば、「二〇〇〇年たっても、まだ改善されていないの?」と言うところだろう。

平安時代の出産の風景

次に、健康分野について見ていこう。GGIにおける出生時の男女比のスコアは、〇・九九四で世界第一位で

ある。自然に任せた状況では男子がやや多く誕生するので、このスコアは、現代日本では胎児の性別による出産調整がなされていないことを示している。

しかし歴史を振り返ると、徴兵制度にかなう、健康な男子を産むことが奨励された時代があったことを思い出す。そして、女の身では極楽往生できないとされたため、死後は男性に生まれたいと変成男子へんじょうなんしの祈りを捧げた女性たちがいた時代もあった。それを母の胎内にいる胎児に向かって祈ったのが、平安時代である。

平安時代の認識では、生まれてくる子の性は妊娠三ヶ月まで、つまり、母の胎内ではまだ決定していないものであった(『医心方』)。それゆえに、胎児がたとえ女子であっても、男子に変わるように祈るのが、変成男子の祈りである。

これは、特に、天皇の子どもの出産時に実施されていたと考えられる。平安時代において、天皇は男性に限るとされていたわけではない。多くの皇妃がいて、その中のだれかが男子を産むことで、女性天皇の登場は避けられてきた。が、これは、あくまでも結果論である。

一方、天皇の後宮に娘を入りたい摂関家では、女子誕生

生も喜ばれた。どの親王が東宮に、いずれは天皇になるかがわからない時には、東宮候補者に釣り合う年齢の女子がいることが望ましかった。当時の結婚適齢期はおよそ一五歳であるが、そうした女子を複数持つことが、天皇外戚を目指す男性貴族には必要であった。

そこで、子のいない妻、あるいは、男子のみで女子を産まなかった妻は、養女をとることを考えた。『蜻蛉日記』の筆者(本名不明。藤原倫寧ともなりの娘。一般には「道綱の母」と呼ばれる)とその夫、藤原兼家との間に産まれたのは男子一人であった。そこで道綱の母は、養女を迎えることにした。婚姻政策の要となる女子を得ることで、兼家との関係回復を図ったのである。

女子誕生を忌避しなかった、というと聞こえは良いが、要は政治の持ち駒としての価値を女子に見出すということだから、ジェンダー平等と関連付けて評価することはできない。

さて、ここで和歌を一つ紹介したい。産まれた孫が女の子だと聞いて、藤原為頼(？、九九八年)が詠んだ歌である。

后がねもし然らずはよき国の若き受領の妻がねなし
〔藤原為頼朝臣集〕

この子は天皇の后になるか、そうでなければ、良い国の若い受領の妻になるのがいいなあ、という意味で、孫娘の幸せを祈る気持ちを詠んだ歌である。中流貴族にとって、一族から天皇の后を出すことは夢であって、実際には同じ階級の受領クラスの妻にすることが現実的である。だからこそ、受領でも、豊かな国の受領で、なおかつ、若い男性が望ましいと考えるのである。女性自身による女性の理想的な結婚を述べたものではないが、当時の結婚観の一端を示していると評価できよう。

この現実的な歌を詠んだ為頼は、あの紫式部の伯父である。

ところで、出産の方法にも歴史がある。が、それを知るための史料が、平安時代にはほとんどない。天皇の皇妃の出産は、政治的な意味合いを持つがゆえに、まだしも記録に残っている。但し、出産の風景を克明に記録するのは、『紫式部日記』など女性の手による記録類に限られる。それは、産室には女性だけが入り、産婦をサ

ポートするからである。

成立時期は下るが、『餓鬼草紙』や『彦火火出見尊絵巻』、『北野天神縁起絵巻』などの絵巻史料にも、出産の風景が描かれており、イメージしやすい。絵巻からは、前近代の出産が座産であること、僧侶や巫女、陰陽師、山伏などによって、祈りが捧げられていることなどがわかる。絵巻は写真ではないので、史料として活用する時には表現コードの解説などの作業が必要となるのだが。

さて、平安時代の記録を見ると、出産時に落命する女性が多いことに気付く。藤原行成の妻の例を紹介しよう。

長保四年（一〇〇二）一〇月一六日、行成の妻は、女子を出産した二日後に死去した。出産の四日前から「赤痢」（と、日記に書かれている）にかかっていたことも影響したのであろう。二七歳であった。出産時には、僧侶による加持祈禱が行われ、安産祈願がなされたことが記録されている。また、女子誕生の翌日、政界トップに君臨する藤原道長からは使者が派遣され、源経房ら貴族男性六人が行成邸を訪問している。「訪」と表記されているので、出産祝いの「とぶらい」である。こうした時、使者

を派遣するか、それとも自分自身が訪問するかによって、人間関係の濃淡が表れる。ここでは、女子出産の祝いになされていることに注目したい。先述したように、生まれてきたこの女子は、行成にとって有効な「持ち駒」になったかもしれないのである。

しかし、生まれてからたった二日の後、この子も死んでしまう。行成によると、この妻とは一四年間の結婚生活の中で、七人の子が生まれ、うち三人が夭折した、という（行成は、婚姻日まで日記に記している）。栄養状態および衛生状況が庶民よりは良いはずの貴族ですら、子どもの死亡率はかくも高いのである。まして庶民は、と考えると想像に難くない。

子を失った悲しみに、さらに、妻の死が重なった。出産は穢れであるので、宮中に出仕しなければならぬ男性は、原則として産室には近づかない。妻や子の子は、人づてに聞くのみである。しかし、妻の病が重く、苦しんでいる様子を聞いた行成は、穢れに触れることをいとわず、病床を三度も見舞っている。仕事よりも妻を優先させたのである。

病床の妻は、尼になることを望み、行成に請うた。こ

れは臨終出家で、極楽往生をするために、死を目前にして出家するのである。出家は俗世間から去ることなので離婚を意味する。女性の場合、自ら髪を切って尼となることは、妻からの離婚宣言なのであった。娘の結婚相手が氣に食わず、別れを強要するために、その娘の髪を切って尼の姿にした父親などというのもいた。今ならばDV（家庭内暴力）である。なお、平安時代の女性の出家は、剃髪ではなく、尼削ぎという肩までの長さに切ることで行われた。ショートカットの私は、平安時代ならば姿は尼である。

ここで、『源氏物語』を思い出していただきたい。死を前にして出家したいと望む紫の上に対して、光源氏は断固拒否し続けた（「若菜下」、「御法」）。自身が耐えられなかったからである。最愛の妻・紫の上は、最後の望みを叶えることができないまま死んでしまい、光源氏は強烈な後悔に襲われる。紫の上は、光源氏のせいで極楽往生ができなかったのではなからうか、と読者は思う。

それに対して、この行成の態度はどうか。妻は僧によって受戒し、法名も得た。行成と共に、名号を唱え、懺法（せんぼう自分の罪を仏に懺悔すること）をして、臨終を迎える

ことができた。これは、当時の貴族女性にとって、最も望ましい死の迎え方の一つであっただろう。

このように、妻を大切にする一面を見せた行成であるが、この妻のことを日記の中で「孟光^{もうこう}」と呼んでいる。これは、中国後漢の時代、容貌は醜いが夫に礼を尽くした女性の名である。『烈女伝』や『蒙求^{もうぎゅう}』(唐代に成立)所収の故事で知られており、白居易の詩に自分の妻を「孟光」と呼ぶものがある。行成はこれに倣^{なら}ったと考えられているが、実際に面と向かって妻をなんと呼んでいたのかはわからない。

ちなみに、藤原道長は、妻の源倫子のことを「女方」あるいは「女房」と日記に記している。これは、「にょうぼう」と読むのであろう。

さて、栄養状況や衛生状況の悪い平安時代の人の寿命が、現在よりもはるかに短いことは想像が付くだろう。男性ももちろん、藤原実資のように九〇歳という長寿を保った人はほんの一握りであった。藤原道長は、六二歳で亡くなったが、その兄道隆(一条天皇中宮定子の父)は、疫病にかかって四三歳で亡くなった。行成も、五六歳ま

でしか生きられなかった。こうした男性貴族については、『公卿補任』などの史料から生没年がわかることが多い。

先述したように、行成の妻は二七歳で死んだ。これは行成がその年齢を日記に記録してくれたからわかることで、他の貴族女性で生年や年齢がわかる事例は多くはない。そのため、平均寿命などを算出することは不可能である。が、記録に散見するように、出産時に死ぬ女性が多かったことから、女性の方が平均寿命は短かったと推測される。

その一方で、出産を経て、長生きする女性もいた。例えば、道長の妻源倫子は九〇歳の長寿であった。その娘の彰子(一条天皇中宮)も八七歳の長寿であったが、息子の後一条天皇(二九歳)、後朱雀天皇(三七歳)に先立たれている。平安時代は、男女ともに死は身近にあったのである。

GGIの「健康」分野には、「健康寿命」の項目がある。日本では女性の方が男性よりも健康寿命が長いので、スコアは一・〇三九、順位は六九位となっている。現代日本では、男性の健康寿命を延ばすことが課題となっている。

平安時代の労働観

次は、日本の苦手な経済分野である。GGIにおいて、労働参加率の男女比のスコアは〇・七五九（八一位）で、女性活躍にはまだ遠い。同一労働における賃金格差も大きく（スコアは〇・六二一（七五位））、勤労所得の男女差も大きい（スコアは〇・五七七（一〇〇位））。かつての経済大国日本がその力を失いつつある中で、女性により厳しい経済状況を強いることがわかる。

中でも日本が課題とするのは、女性管理職の少なさである。スコアで〇・一四八（二三三位）となっており、これこそ、日本経済復活のキーポイントとして喫緊の課題と考えられている。

ここで平安時代のことを考えたいのであるが、平安時代の女性の経済状況については、詳しい史料が残っていない。そこで、労働、にテーマを変えてみたい。

清少納言は、『枕草子』（第一八六段）に愚痴を書いている。意識すると、以下の通り。

男性の場合、位が高くなると人から尊敬されるようになる。しかし、女性の場合はそうではない。宮中で天皇の乳母や三位の位を得ればそれ相応に扱われるが、身分

以上の尊敬は得られない。そもそも、そこまで出世する女性の数は少ない。女の幸せは、受領の妻となって任国へ行くことだと思われる。確かに、中級貴族女性が上級貴族の正妻になったり、上級貴族の娘が天皇の后になったりするのにはすばらしいことだけど。

清少納言の不満の根本には、男性と女性で官職のシステムが違う、という律令体制のひずみがある。つまり、「職員令」（男性対象）と「後宮職員令」（女性対象）が分かれているように、女性の登用、出世は男性のそれとはコースが違うのである。宮廷社会では、女性が活動する場が「後宮」（天皇皇妃の生活空間。但し、江戸城大奥のような男子禁制空間ではない）に限られており、「同一労働」というものはほぼ存在しないが、だからこそ、労働対価も平等ではあり得ないのである。そこに、清少納言は気付いていた、ということだろう。

ここで、清少納言が宮中女性のトップに君臨する、と見ていた天皇の乳母の実例を紹介したい。

天元二年（九七九）六月三日、円融天皇の皇后皇子が死去した。天皇の後宮には、前年に関白太政大臣藤原頼忠の娘遵子、右大臣藤原兼家の娘詮子がこの順に入内し、

女御となっていた。空席となった皇后、つまり、天皇正妻のポストをめぐって、遵子と詮子の間で争いが勃発するのではないかと思われたその矢先、詮子が懐妊し、男子を出産した（後に、一条天皇となる）。これで、詮子が皇后になるだろうと皆が思っていたが、天皇は遵子を皇后としたいと考えていた。その背景には、同じ藤原氏とはいえ、小野宮流の頼忠と九条流の兼家とでは一種の派閥が分かれていたこと、また、円融天皇と兼家との間にひそかな対立があったことなどがある。天皇の内意を受けて、頼忠は水面下で遵子立後の準備を始めた。

天元五年（九八二）二月、この天皇の内意を頼忠に口頭で伝えたのが、天皇の乳母であった少将命婦（しょうしょうのみよめ）良峯美子である。平安時代の乳母には、実際に授乳する乳母と、乳離れした後も養育を行う乳母がいる。美子がどちらであるかは不明であるが、天皇の成人後もその言葉を伝える役目を果たしていることを考えると、おそらくは後者であろう。養育係の乳母は、母親代わりとして、成人後も養い君を後見し続けるのである。

さて、美子はこの件に関する天皇側の代理人として、頼忠・遵子側の代理人たる藤原実資（頼忠の甥）と直接に

面談している。そのおかげで、実資の日記『小右記』に記録が残っているのである。美子は、立後の件を兼家に知られないように内密に準備を進めよと、実資に要求している。天皇が兼家をかなり警戒していることがわかるのであるが、それぐらいのことを兼家はやってきた、という話は本稿のテーマからずれるのでやめておこう。

実際には、兼家は情報を得ていたようだが（古今東西秘密は漏れる）、情報公開後も妨害することなく、当日を迎えた。その日（三月一日）、内裏での儀式の後、遵子の実家・四条殿で宣命（任命書）が披露された。その場に美子も伺候しており、翌日、頼忠から褒美を貰っている。そのうち美子は皇后遵子に仕え、従三位の位を得てさらに典侍（内侍司の次官）となり、実質上の最高権力者として後宮を取り仕切る役目を果たした。こうした美子の活躍を見ると、清少納言が天皇の乳母の役割を高く評価することにも納得がいく。

美子を女性管理職として見るならば、平安時代には女性管理職が存在し、活躍する場があった、ということになる。しかし、男性との交流はあったものの、美子の活動は後宮の範疇を越えるものではなく、限られた女性分

野内での管理職としての活躍であった。よって、これを現代の女性活躍と同等に評価するべきではない。

美子は、律令体制の壁を破ることはできなかった。清少納言も、それを理解しているからこそ、愚痴を書き連ねたのである。

平安時代の政治分野

最後に、政治分野での女性の活躍を見ておきたい。GIでは、国会議員の男女比（日本のスコアは〇・一一一（二三位））、閣僚の男女比（日本のスコアは〇・〇九一（二八位））、過去五〇年間の行政の長の在任期間の男女比（日本のスコアは〇（八〇位）で判定する。が、議会民主制は存在せず、官職システムも男女別であった平安時代で、こうした男女比を論じても無意味である。平安時代の天皇は行政の長ではないが、先述したように平安時代には女性天皇は存在しないので、スコアはゼロである。

平安時代のことがらとして斎王の話を出したいところだが、ここも視点をずらして、まずは皇后の活動から見ていきたい。

先程の藤原遵子立後のエピソードでもう一つ注目して

ほしいのは、男子がいるかどうかで天皇正妻の地位が決まるのではない、ということである。立後の時、遵子は二六歳。まだ懐妊への期待は残っていたであろう。しかし、彼女は結局妊娠することはなかった。それでも、皇后としての地位を保ち続けたのである。つまり、平安時代の皇后は、子どもの母であることよりも、天皇の正妻であることの意味の方が重かった、ということである。さらに、父や兄弟による後見を必要としていた。

また、皇后は、「皇后宮（中宮）御給」という人事の推薦梓を持っていた。例えば、正暦二年（九九一）正月に、藤原隆家が従五位上に叙位されたのは、前年一〇月に一条天皇中宮となった姉定子の「中宮御給」によるものである。こうして、皇后（中宮）は自分の後見を強固にすることが可能であった。ちなみに、こうした特権（年給といふ）は、院（上皇、東宮、親王、内親王などの皇族、そして、女御も持っていた。

ここで、天皇正妻の呼び方について整理しておこう。律令に定められているのは、「皇后」という称号で、「中宮」はその居所の名称であった。この「中宮」を「皇后」と同じ意味で使用するようになったのは、一〇世

紀の初め頃、醍醐天皇の時代からである。正妻であるので、皇后(中宮)は一人のはずであるが、それを「皇后」と「中宮」に分けたのが、一条天皇の時代である。長保二年(一〇〇〇)、藤原定子が一条天皇の皇后であるのに加えて、新たに彰子が中宮となった。いわゆる「二后並立」の先例を作ったのは、藤原行成のアイディアであり、藤原道長の権勢である。

さて、平安時代における政治と女性の関わり方についてももう一つ。それは、私的な分野に見えることも、実は、公的な意味を持つ場合がある、ということである。つまり、女性が私的な場面で活動していても、実は、公的な意味を持つことがある。平安時代は、公と私の区別がややこしい。

例えば、天皇の息子が誕生した際の出産儀礼。生まれてから三日後、五日後、七日後、そして、五〇日後に産養^{うぶやしなひ}というお祝いが行われる。寛弘五年(一〇〇八)、一条天皇中宮彰子が土御門第(藤原道長屋敷)にて産んだ男子(敦成親王。のち、後一条天皇になる)の三日の産養は、この屋敷で、中宮職が奉仕して行われた。私邸で行われた

行事であるが、公の職員が奉仕する公式行事である。五日目の産養は、道長が奉仕した。これは、新生児の祖父・左大臣の差配である。さらに七日目の産養は、場所と同じく土御門第であるが、天皇主催。これは、公式行事と評価されよう。天皇の子どもの生誕祝いが、公式行事として、あるいは、私的行事として行われていることがわかるだろう。ちなみに、九日目の産養は、藤原頼通が主催した。

これらの行事については、『御堂関白記』や『小右記』、『権記』などの男性貴族の日記にも、記述の濃淡はあれども、記録がなされている。現存していなくとも、各官職ごとに、準備段階から当日の様子まで、様々な記録が制作されたことであろう。

一方で、女性も記録を残した。この彰子が男子を出産した時の記録を書いたのは、紫式部である。『紫式部日記』に詳細な記録が残されているが、これは、彼女が私的な関心で書き記したのではない。天皇の子の誕生にまつわる諸行事に女房がどう関わったのかを記録するのは、後の規範、平たく言うと、女房のための教科書とするためである。ゆえに、こうした女房の日記には、行事

に相応しい衣裳の記録や、来訪者名、贈答品のリストが続くことになる。これは、女性がファッションに興味を持っていたから、とか、女性は物を貰うのが好きだからなどと歪曲してはいけない。これらを記録しておくことが、彼女たちの役目であり、それが政治だったのであるから。

さて、先述した良峯美子のエピソードで、もう一つ注目してほしいのは、彼女が典侍になった、というところである。律令制において、後宮一二司のうち最も規模が大きかったのは、内侍司である。天皇に近侍して臣下からの請願を天皇に伝え、また、天皇の命を臣下に伝える役割などを果たした。これは、同様の役割を果たした蔵人(男性)の方に徐々に重点が置かれるようになるが、内侍が勅命を太政官(男性)の担当者(上卿)などに文書で伝える「内侍宣」は存続していた。男性と女性で活動の場が分かれている古代国家において、それぞれの世界が接点を持ったのが、この文書行政であった。

内侍司の長官が、尚侍である。天皇の女性秘書官のトップなのであるが、後に、天皇の後宮に組み込まれる

ことになった。そうなる以前の事例だが、藤原道長の娘、藤原嬉子(母は源倫子)は、寛仁二年(一〇一八)一二歳で尚侍となった。その年齢で内侍の職務を果たせるわけがない。つまり、この頃には、内侍の実質上の職務は、長官以外が担っていたのである。形ばかりの尚侍嬉子は、治安元年(一〇二二)東宮敦良親王(父、一条天皇。母、中宮藤原彰子)の後宮に入った。この東宮が後朱雀天皇となる(長元九年(一〇三六)前に、嬉子は死去してしまったので、彼女は天皇の女御や中宮にはならなかった。が、産んだ息子は後に、後冷泉天皇として即位する。

この他、一〇世紀の末頃、村上天皇の寵愛を得て後宮入りし、天皇の死後に尚侍に任じられた藤原登子(父は藤原師輔)の例もある。つまり、内侍司という天皇秘書部局は、天皇後宮に関連付けられて、その役職名が様々に運用されていた、ということになる。

中世の『御湯殿上日記』を読むと、天皇に近侍する女官の役割は決して軽くはない。しかし、女性の職務、働きを正当に評価しない風潮の萌芽が、平安時代のこうした動きに見えらるとするならば、その禍根は深い。

1000年後の今は

日本のGGIのスコアには、語り尽くせぬ前史がある。『源氏物語』など古典文学に触れることで平安時代の様子を垣間見、する時、展開する人間模様は「今と変わらない」などと共感することがある。あるいは、今とは違う世界で起こるファンタジーとして楽しむことも可能である。

しかし、歴史研究が明らかにしてきたことは、過去に起こった現実である。現代人は、身分制社会に共感できないし、理不尽なできごとには怒りを感じる。現代との違いを明らかにすることこそが、社会の変化をあぶり出すことになる。

一〇〇〇年後の今、わたしたちの社会はジェンダー平等に一步でも近づいているのであろうか。「そこにジェンダーの視点を！」を合い言葉に、平安時代を振り返ることが、紫式部の悩みや清少納言の愚痴への回答となるだろう。

京樂 真帆子（きょうらく まほこ）

一九六二年、兵庫県生まれ。一九九二年、京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了（単位取得退学）。現在、滋賀県立大学人間文化学部教授。京都大学博士（文学）。

【主要編著書】『平安京都市社会史の研究』（塙書房、二〇〇八年）、『平安京都市社会と火災』（三宅和朗編『環境の日本史2 古代の暮らしと祈り』吉川弘文館、二〇一三年）、『歴史学と映画——『大仏開眼』と北山茂夫』（『人間文化』三五、二〇一四年）、『牛車で行こう！』（吉川弘文館、二〇一七年）、など。

15分で読む 平安時代の女性たち ブックガイド

出版社	ISBN(978)	書名	著者名	本体 価格	刊行
平凡社	4582472172	シリーズ・女性と仏教1／尼と 尼寺	大隅和雄・西口順子編	品切れ	1989
平凡社	4582472189	シリーズ・女性と仏教2／救い と教え	大隅和雄・西口順子編	品切れ	1989
吉川弘文館	4642012942	家族と女性の歴史——古代・中 世	前近代女性史研究会編	品切れ	1989
吉川弘文館	4642013567	日本女性史論集6／女性の暮ら しと労働	総合女性史研究会編	品切れ	1998
吉川弘文館	4642077729	史料にみる日本女性のあゆみ	総合女性史研究会編	2300	2000
吉川弘文館	4642023740	古代・中世の家族と女性	西村汎子	品切れ	2002
吉川弘文館	4642013987	日本家族史論集8／婚姻と家 族・親族	義江明子編	品切れ	2002
吉川弘文館	4642024563	日本古代女性史論	義江明子	9500	2007
吉川弘文館	4642056274	家族の古代史——恋愛・結婚・ 子育て	梅村恵子	品切れ	2007
吉川弘文館	4642756273	家族の古代史——恋愛・結婚・ 子育て	梅村恵子	2300*	2019
吉川弘文館	4642057905	古代の女性官僚——女官の出 世・結婚・引退	伊集院葉子	1800	2014
山川出版社	4634541603	日本史リブレット／古代・中世 の女性と仏教	勝浦令子	800	2003
塙書房	4827312928	日本古代女性史の研究	関口裕子	8500	2018
塙書房	4827330984	女性と穢れの歴史	成清弘和	品切れ	2003
塙書房	4827312256	伊勢斎宮の歴史と文化	榎村寛之	3200	2009
東京大学出版会	4130260602	ジェンダーの日本史(上) 宗教 と民俗 身体と性愛	脇田晴子・S. B. ハン レー編	9000	1994
東京大学出版会	4130260619	ジェンダーの日本史(下) 主体 と表現 仕事と生活	脇田晴子・S. B. ハン レー編	8600	1995
中公新書	4121010032	平安朝の母と子——貴族と庶民 の家族生活史	服藤早苗	品切れ	1991
中公新書	4121012401	平安朝の女と男——貴族と庶民 の性と愛	服藤早苗	品切れ	1995
中公新書	4121020444	平安朝の父と子——貴族と庶民 の家と養育	服藤早苗	品切れ	2010

* オンデマンド版

出版社	ISBN (978)	書名	著者名	本体 価格	刊行
大阪大学出版会	4872597783	〈ひと〉から問うジェンダーの世界史 第2巻／「社会」はどう作られるか？——家族・制度・文化	姫岡とし子・久留島典子・小野仁美 編	2400	2023
集英社インター ナショナル	4797680836	新書版 性差（ジェンダー）の日本史	国立歴史民俗博物館監修、「性差の日本史」展示プロジェクト編	840	2021
千代田書房	4806430063	平安時代後宮及び女司の研究	須田春子	品切れ	1982

共有書店マスタの活動、これまで、これから

古澤 亘（新潮社、書店マスタ管理委員会 委員長）

現在、一般社団法人日本出版インフラセンター（以下、JPO）には業界インフラの実務を担う管理センターが4つあります。

ISBNコードの国際規約に基づいて、その付与を行う日本図書コード管理センター、書誌情報を出版社から収集し、書店・取次等に配信している出版情報登録センター、雑誌コードの管理を行う雑誌コード管理センター、そして出版社が営業、販売促進を行う上で必要不可欠な情報である書店情報を収集、管理する書店マスタ管理センターの4つです。

書店マスタ管理センターはその前身として1999年に出版社有志の任意団体として設立しました。この時期、日本経済全体としては1990年代に入りバブル崩壊後の低迷期に入り、長期にわたる不景気となりましたが、出版業界は売上高のピークを1996年に迎え、1997年の消費税増税に伴う個人消費の鈍化とともに、少しずつ売上規模が下がってくるという状況を迎えたこととなります。

それまで本の売上を把握する方法としては、いわゆるスリップと呼ばれる売上カードの集計を

月に一度や年に一度、それも文庫や書籍といった大きなジャンル単位でのカウントを各社が実施していました。その後、スリップに記載されているISBNコードのOCRフォントをデータ化するという手法が生まれ、大手版元が特定の書店について毎日売上カードを回収、データ化するという運用を開始しました。それまでの何となく売れているとか、書店からの注文が多いといった肌感覚や経験的な観測を基にした重版検討から、実際にどの書店でどれくらい売れているのかといった今では当たり前の上売分析に基づく重版検討がこのころ本格化したのです。

大手出版社であればそうしたデータ化を行うことも自力で可能です。一方で多くの出版社はコストの面、あるいは人手の問題も含めて大手同様の作業を行うことが難しいなか、この業界の最もすばらしい点ではありますが、同じ目的、つまり書店を通じて売れるべき本をしっかりと読者のもとに届けるという目的のためにライバルである出版社同士が協力しあう土壌があり、売上データを出版社が共同で取得し配信するという仕組みを私たちの先輩は構築しました。それが、現在、出版POSというシステムにつながっています。そのシステム構築において商品のコードはすでにISBNコードがあり共通化されていましたが、どこで売れたかという書店を表すコードがそれまでは販売会社を使う番線コード、あるいは出版社が個別に報奨金の支払いや配本ランクの設定に使っていた自社のコードでした。そうしたコードは複数の出版社が共同して使うコードとしては不備があり、これを解消するため書店をユニークなコードで管理するための書店マスタを業界のインフラとして構築することになりました。

出版社間で共通の書店コードを作るため、出版POSの前身であるP-NETの幹事社を中心に筑摩書房の田中達治さんを代表世話人として、集英社、小学館、講談社、角川書店(現・

KADOKAWA)、文藝春秋、光文社、学習研究社(現…Gakken)、中央公論新社、太田出版、草思社、主婦の友社、弊社が世話人社となり前述した「共有書店マスターザー会」が発足しました。

会費徴収や更新マスターデータの配信などの事務を三菱総研DCS(現在は株式会社インテジテクノスフィアが担当)に、データベースの管理は一ツ橋企画に業務委託する形でスタートし現在に至ります。

その当時の、書店のいわば台帳管理としてはアルメディアという調査会社の書店名簿があり、これを元にしたデータベースを業界のものとするという案もありましたが、上記の有志で検討した結果、一ツ橋企画のデータベースを使用することを決めました。

一ツ橋企画は集英社の書店マスターデータを保守しており、すでに広範な書店のデータがコード管理を含めて効率的にデータベース化がなされていたこと、取次番線コードとも関連付けされており実務を行う上で各出版社自社の書店データベースとの連携がしやすかったこと、新規店の出品依頼がほぼ必ず集英社には集まることや実際に営業部員が収集している開閉店の情報が随時更新されていることが決め手となりました。

当然、初期投資の費用がかかりましたが、ランニングコストを含めて出版社が売上高に応じて傾斜配分で費用を負担するという形で運営可能な形にしました。

現在では毎月の負担金は9500円＋税で一律(JPO会員社は会員負担金に含める)ですが、当時は大手出版社の負担は毎月数十万円を大きく超える金額で、これを何とか出版社一律の料金負担にしたいというのが当時の代表世話人である田中達治さんの目標でした。

もう一つの大きな役割が、書店へのFAX送信に際して、それまで各社が管理していたFAX番号を書店マスター管理センター内で管理することです。FAXは大きな販促手段であり、そのため各社が自社でFAX番号を管理するという作業は大きな負担でした。

それが書店マスター管理センターにてFAXデータベースを収集することで、各社でメンテナンスをする必要がなくなり、番号違いによる誤送信を防ぐことが可能になりました。

また、s i b o o k . n e t、Webまるこ、Bookインタラクティブといった書店向け発注サイトのログインIDとして共有書店コードが利用されています。

こうしてJPOが出来る2002年以前から書店マスターは書店とその売上をデータ化し、業界の売上増、返品減といった諸問題に対応するべく出版社が共同で活動してきたのです。

その活動を通じ、2007年に出版社有志の任意団体から有限責任中間法人として法人化（のちに一般社団法人）し、2009年にJPOの委員会として加盟することとなり現在に至ります。

数十社からスタートした共有書店マスターユーザー会は、有限責任中間法人を設立した際には加盟版元が268社となり、そして今日、加盟版元は400社を超え、当初の目標である一律の利用料金も実現しています。

現在、書店マスターのデータベースには店舗を構える書店、外商や営業所、チェーン本部、本を販売するコンビニエンスストア、Amazon他ネット書店、限定的ですが電子書籍を販売する電子書店が登録されており、出版業界の書店データベースの中核を担ってきました。

出版POSシステムはもちろん、書店チェーンが開示する売上・在庫データのシステムの一部にはすでに共有書店コードが実装されており、自社のマスターやリンクデータなどと突き合わせ

をすることで、より精度の高い売上分析を行うことが今日では当たり前となっています。

現在JPOではより早く、より多く、より精緻に出版社が書誌情報を提供し、それを元に書店も取次も仕入れや販売に活かそうという考えを共通テーマとしています。

JPROおよびBooksPROを活用することで売り伸ばしを図るというテーマのもと、書店・マス管理センターは大手取次との直接の取引がない、いわゆる独立系書店も含めて登録し、そうした意欲ある独立系書店も書誌情報・販促情報に接する機会を拡大し、読者と書店、そして本とのコンタクトをサポートしていきたいと考えています。

さらに、業界全体の売上が漸減していくなか、出版社も書店も従来からある販売チャネル以外のさまざまな流通チャネル、あるいは本以外の商材を扱うことも多くなり、販売条件も多種多様になってきています。また、「2024年問題」と呼ばれる流通業界の問題はもちろん、出版流通自体が大きな危機にも直面しているなかで、RFIDの装着、売上開示システムのさらなる発展、新出版ネットワークの見直しといった課題に書店データベースの立場から業界インフラの役割を果たし、業界全体の売上改善、効率化への貢献に努めますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

古澤 亘（ふるさわわたる）

『完訳版』 第二次世界大戦』（全6巻）

ある日、ローズヴェルト大統領が、この戦争をどう呼ぶべきか、公に提案を求められたと、私にいった。

私は即座に「不必要な戦争」だと答えた。前回の長期戦によって甚大な損害を受けていた世界を破壊し尽くしたこの戦争は、どんな戦争よりも容易に阻止できたはずだった。数億人が苦難と犠牲を強いられ、正当な大義が勝利を収めたあとも、平和や安全保障を確保できず、せっかく乗り越えた危機よりもさらにひどい危機の罠にはまったとき、人類の悲劇は頂点に達した。過去について熟慮することが、今後の歲月の指針となり、新しい世代が何十年も前の過ちを修復して、人間がほんとうに必要な物事と栄華に則り、未来におぞましい光景がくりひろげられるのを抑制することを、

私は心の底から願っている。

ウィンストン・チャーチル
「序文」（一九四八年三月）より

この一節にはじめて触れたとき、意外な感に打たれたことを覚えています。ここで語られる第二次世界大戦は、日本を含む交戦各国が歴史上もっとも多くの死傷者を出してようやく終結した、人類の〈宿痾的な〉戦争だったのではないか——。こんな先入観のせいでしょうか。連合国側の指導者のひとりだったチャーチルが「不必要な戦争」と冒頭で言い切り、将来世代に向けた〈戦争回避のすすめ〉ともとれる文で結んでいる点に惹かれ、1巻の内容紹介文に引用しました。

三村 純（みすず書房 編集部）



第1巻のカバー
(～2028年 毎夏1巻ずつ刊行予定)

今年八月、この序文ではじまるW・チャーチルの名著『第二次世界大戦』第1巻の刊行に、およそ三年越しで漕ぎつけることができました。大戦中に英国首相を務めたチャーチルみずからによる回顧録全6巻を、翻訳者の伏見威著さんによる単独訳で毎夏1巻ずつ、二〇二八年までかけて出していく六年がかりの企画です。一九四八～五四年に刊行された英語原著のオリジナル版からの全訳であることを示すため、シリーズ名には「完訳版」と謳いました。奇しくも今年はチャーチルがノーベル文学賞を受賞してから七〇年にあたり、節目の年に最初の巻

を出せ、なおかつ売れ行きと反響ともに良く、ひとまず胸をなでおろしています。



この企画が生まれたきっかけは、三年前の二〇二〇年秋のこと。チャーチルの代表作を新訳したらどうかとのご提案を伏見さんから頂き、調べてみたところ、現行の河出文庫の四巻本は簡約版の翻訳であり、本邦初の完訳である毎日新聞社版の『第二次大戦回顧録』（一九四九～五四年）はすでに品切れであることがわかりました。それならば、オリジナル版からの全面新訳をやりましょうという話になり、企画が本格化していきました。映画「ウィンストン・チャーチル ヒトラーから世界を救った男」（G・オールドマン主演）や「チャーチル ノルマンディーの決断」（B・コックス主演）を二〇一八年の公開時に前後して劇場で観、それぞれ異なるチャーチル像に感銘を受けていたので、この人物についてさらに知りたいという個人的な好奇心も後押ししました（ちなみに、本シリーズをお読みいただくと、これらの映画とはまた違うチャーチルの顔が見えてくるので、鑑賞の愉しみがさらに増します）。

版權の交渉が終わり、翻訳・編集作業も順調に進んでいたさなかの二〇二二年二月に、ロシアによるウクライナ侵攻が起きました。当初の企画意図は、あくまで古典名著の新訳でしたので、この侵攻に関連して第二次世界大戦やチャーチルの言葉が引き合いに出されるたびに、戦争便乗企画ととられるのではないかと、の危機も覚えました。深刻化する状況を前に、打ち出し方について思案しましたが、時代ごとの状況のなかで読まれるのが古典の常と思ひ至り、あくまで新訳企画として売り出し、最終的な読み方は読者のみなさんにゆだねることにしました。時々の状況に新たな光を当てる古典の効用を、本作からも感じとっていただけたら幸いです。

第1巻は、第一次世界大戦の終結から筆を起こし、戦間期のさまざまな危機を経て新たな大戦が勃発、チャーチルが海軍卿（＝大臣）に就任し、一九四〇年五月に首相に就任するまでが語られます。完訳版には、文庫版にはない演説や書簡のほか、チャーチルが部下や同僚に実際に送った各種の指示書や意見書が含まれており、それらを通じて、戦争の具体相をより生々しくとらえることができます。

ときに重厚で、ときに流麗な演説や、随所に英国人ならではの諧謔がにじむチャーチルの名文を、伏見さんが

ノーベル文学賞を受けた名宰相の主著、全面新訳スタート

ウィンストン・チャーチル

[完訳版]

第二次世界大戦

第1巻

湧き起こる戦雲

伏見威審訳



四六判上製 912頁
定価 6050 円(税込)

—— 続巻予定 ——

- 第2巻 彼らの最良のとき
Their Finest Hour 24年夏
- 第3巻 大同盟
The Grand Alliance 25年夏
- 第4巻 運命の枢機
The Hinge of Fate 26年夏
- 第5巻 攻略の拡大
Closing the Ring 27年夏
- 第6巻 凱旋と惨禍
Triumph and Tragedy 28年夏
(訳題は仮)

東京文京本郷 2丁目20-7 **みすず書房**
tel. 3814-0131 fax 3818-6435
www.mszo.co.jp

英国元首相が語る全記録。1は戦間期、大戦勃発、首相就任まで。



全6巻をそろえた際の予想図

巧みに日本語に変換しており、読んでみると、まるでチャーチルの傍らでその肉声に耳を傾けているような感じがしてきます。原文に照らして読むことで、一層深く訳文の妙味を味わえたのは、編集作業の醍醐味のひとつで

した(余談ながら、同じく伏見氏が新訳したノーベル賞作家J・スタインベックの『怒りの葡萄』『新潮文庫』も、作品の迫力を引き出す名訳ですのでぜひ)。

装丁は、東野圭吾作品から『暁の字品』(堀川恵子・著)といった歴史ノンフィクションまでを手がける練達のデザイナー・岡孝治さんにお願いしました。「古めかしなく、かつ重厚感も出したい」というわがままな依頼を汲んでくださり、落ち着きと新鮮さが同居する仕上がりにしていただきました。各巻の背表紙に一枚の写真を切り分けて配し、6巻そろえると写真も完成するようにしたのも岡さんのアイデアです。全巻そろえると上の写真のようになる予定ですので、ぜひ完結を愉しみにお待ちいただきたいと思います。

シリーズ最初の巻を盛り上げたく、1巻のオビへの推薦文を、経営学者の野中郁次郎先生と地球科学者の鎌田浩毅先生のおふたりをお願いし、ご快諾いただきました。ともにチャーチルのファンを公言され、熱心な読者が多く、かつご専門も異なるおふたりに強く推していただけで、新訳で読んでみたいという読者を新たに獲得できたと感じます。なお、ここでご紹介した装丁と

推薦文は、小社の特設サイト (<https://www.msx.co.jp/special/09631/>) からご覧いただけます。



本書はあくまでひとりの政治家が書いた回顧録であり、最新の研究成果や学知が詰まった人文書とは異なります。また、客観性にも留保をつける必要があるでしょう。いっぽうで、難局に当たった当事者ならではの実践知をじかに味わえる点では得がたい書物です。他の回顧録や研究書と読み比べていただくことで、大戦の実態がよりつぶさかつ立体的に浮かび上がってくるはずです。当時の日本の交戦国だった連合国指導者としての叙述も、異なる視点を教えてくれます。現在も世界を覆う〈戦争と平和〉の問題を考えるうえでも示唆に富む書物であり、日々私たちが直面する大小の困難を開示するヒントも、もしかしたら見つかるかもしれません。長大な作品ではありますが、チャーチル一流の語り口になじんでくれば、意外なほど楽に読み進められるのではないでしょう。著者の見解に必ずしも同意できない点があるとしても、それらも含めて、チャーチルとの対話を愉しんで

いただけたらと願っています。



まずは1巻を刊行できたものの、あと5巻、つまり五年間は作業が続きます。先は長いものの、来年二〇二四年はチャーチル生誕一五〇年、翌二五年はチャーチル没後六〇年・第二次世界大戦終結八〇年と、関連のイベントが続きます。それらの力も借りつつ、読者のみなさんに愛される新訳シリーズとなるよう、完結まで力を尽くしたいと考えています。

〈続刊予定〉

第2巻 彼らの最良のとき (Their Finest Hour)

二〇二四年夏

第3巻 大同盟 (The Grand Alliance) 二〇二五年夏

第4巻 運命の枢機 (The Hinge of Fate) 二〇二六年夏

第5巻 攻略の拡大 (Closing the Ring) 二〇二七年夏

第6巻 凱旋と惨禍 (Triumph and Tragedy)

二〇二八年夏Ⅱ完結

(副書名は仮、刊行時期は予定です)

人文会会員名簿

〒113-0033 文京区本郷2-20-7 みすず書房内

2023年12月現在

社 名	担当者	〒	住 所	電 話	FAX
大 月 書 店	佐藤 信治	113-0033	文京区本郷2-27-16 2F	3813-4651	3813-4656
紀伊國屋書店	段塚 省吾	153-8504	目黒区下目黒3-7-10	6910-0519	6420-1354
慶應義塾大学出版会	乙子 智	108-0073	港区三田2-17-31	3451-6926	3451-3124
勁 草 書 房	東原 亮佑	112-0005	文京区水道2-1-1	3814-6861	3814-6854
春 秋 社	吉岡 聡	101-0021	千代田区外神田2-18-6	3255-9611	3253-1384
晶 文 社	福士篤太郎	101-0051	千代田区神田神保町1-11	3518-4940	3518-4944
誠 信 書 房	郡司 恵太	112-0012	文京区大塚3-20-6	3946-5666	3945-8880
青 土 社	森 卓巳	101-0064	千代田区神田猿樂町2-1-1 浅田ビル1F	3294-7829	3294-8035
創 元 社	水口 大介	101-0051	千代田区神田神保町1-2 田辺ビル	6811-0662	3219-7800
筑 摩 書 房	河内 秀憲	111-8755	台東区蔵前2-5-3	5687-2680	5687-2685
東京大学出版会	澤畑 塁	153-0041	目黒区駒場4-5-29	6407-1069	6407-1991
日本評論社(休会中)		170-8474	豊島区南大塚3-12-4	3987-8621	3987-8590
白 水 社	岩野 忠昭	101-0052	千代田区神田小川町3-24	3291-7811	3291-8448
平 凡 社	栗生 圭子	101-0051	千代田区神田神保町3-29	3230-6572	3230-6587
法政大学出版局	三木 拓	102-0073	千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎1F	5214-5540	5214-5542
み す ず 書 房	片桐 幹夫	113-0033	文京区本郷2-20-7	3814-0131	3818-6435
ミネルヴァ書房	本橋 弘行	101-0062	千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビルディング2F	3525-8460	3525-8461
吉 川 弘 文 館	片山 伸治	113-0033	文京区本郷7-2-8	3813-9151	3812-3544

代表幹事 片桐幹夫
 会計幹事 片山伸治
 書記幹事 水口大介

《◎委員長(幹事) ○副委員長》

販売・企画委員会 ◎吉岡 聡 ○段塚省吾・佐藤信治・福士篤太郎・郡司恵太・栗生圭子
 調査・研修委員会 ◎森 卓巳 ○澤畑 塁・東原亮佑・河内秀憲
 広報委員会 ◎岩野忠昭 ○乙子 智・三木 拓・本橋弘行

人文会 ホームページ <http://www.jinbunkai.com/>
 (各種情報／各社へのリンクはこちらからどうぞ)

人文会 X (旧Twitter) 開設のお知らせ

このたび人文会ではX (旧Twitter) アカウントを開設しました。

アカウント @jinbunkai
<https://twitter.com/jinbunkai>

本会の活動やさまざまな情報を発信していきます。公式サイトよりもスピーディーに、また異なる視点からお伝えしていきたいと思っていますので、是非フォローや投稿のシェアをお願いします。



影響力の武器〔新版〕

人を動かす七つの原理

ロバート・B・チャルディーニ 著 社会行動研究会 監訳
人を動かす6つの原理を導き出した、社会心理学の不朽の名著が満を持して登場！
世界を動かす影響力の原理とは。3190円

言葉にとらわれた身体

現代ラカン派精神分析事例集

エレヌ・ボノー 著 福田大輔 監訳 阿部又一郎 訳
森綾子 訳 現代ラカン派の中心的な分析家のひとりによる、希少な精神分析事例集。精神分析はどのように身体に取り組むのか、いかなる場所が身体に与えられるのか等を、詳細な事例提示によって論証する。3960円

風景構成法の現在(いま)

皆藤 章・浅田剛正 編 風景構成法の第一人者である編者を中心に、最新の理論と事例研究を結集し、半世紀以上にわたる風景構成法の到達点と今後の指針を示す。4950円

誠信書房 Tel 03-3946-5666
SEISHIN SHOBOKU 東京都文京区大塚 3-20-6

紫式部と清少納言が語る 平安女子のくらし

鳥居本幸代

驚きと共感に満ちあふれた
〈あはれでへをかし〉な女子のリアル



厳格な規範や習慣に縛られながらも人生を謳歌し、後世の人々を魅了してきた平安貴族の女性たち。生活や習俗、人間関係、恋愛・結婚事情など、生涯を年代ごとにつまみひらかし、時代を超え共感を呼ぶ女性たちのドラマに迫る。平安時代、古典文学の魅力満載の書！ 10800円

春秋社 東京都千代田区外神田2-18-6 (税込)
☎ 03-3255-9611 FAX 03-3253-1384

好評、たちまち3刷！

カウンセラーは こんな セルフケアを やってきた

伊藤絵美

洗足ストレスコーピング・
サポートオフィス所長

実はカウンセラーもこんな心の問題を
抱えている！ 第一人者が実践してきた
ケア技法をエッセイで公開。1760円

晶文社

〒101-0051 千代田区神田神保町1-11
Tel.03-3518-4940 Fax.03-3518-4944

臨床のフリコラージュ

斎藤環＋東畑開人

心の支援の現在地
社会の風を受けて、心をめぐる理論も極と極のあいだを揺れ動く。二人の臨床家が、縦横無尽に語り尽くす。1980円

私の先生

大澤真幸

出会いから問いが生まれる
先を歩んだ知者から〈問い〉を受け渡され、その一部を引き継ぐこと。そのありようと内実を明晰な筆致で書き記す。2200円

アイドル・コード

上岡磨奈

託されるイメージを問う
疑似恋愛、恋愛禁止、ビジュアル、年齢、彼らに絡まる様々なコードを丁寧に解きはぐし、その文化を見つめ直す。1980円

青土社

東京神田神保町 ☎03-3294-7829
http://www.seidosha.co.jp/ (価格税込)

森 千香子

ブルックリン化する世界

ジェントリフィケーションを
問いなおす

ブルックリン化する世界
ジェントリフィケーションの疑問、再考
森 千香子 著



ニューヨークの街角から、現代都市の「分断」を学びほぐし、「共生」の可能性をさぐる。

3,520円(税込)

東京大学出版会

〒153-0041 東京都目黒区駒場 4-5-29
TEL 03-6407-1069 FAX 03-6407-1991
<https://www.utp.or.jp/>

創元社

『世界で一番美しい元素図鑑』著者最新作

世界で一番美しい エンジン図鑑

セオドア・グレイ[著] ニック・マン[写真]
森本雅之[監修] 武井摩利[訳]

「しくみ」を偏愛する人、セオドア・グレイの今回のテーマはエネルギーを動力に変換する「エンジン」。蒸気機関、内燃機関、モーターという大発明を美しい写真と共に解説。

A4判変型・上製・240頁・4180円

大阪市中央区淡路町4-3-6 ☎06-6231-9010
千代田区神田神保町1-2 ☎03-6811-0662
<https://www.sogensha.co.jp/>〈税込価〉

英国の歴史家による
ヴェトナム戦史の決定版

ヴェトナム

壮大な悲劇 1945-1975 (上・下)



マックス・ヘイスティングス 平賀秀明 訳
戦場で何があったのか、戦闘に至る歴史的背景と政治的思惑、その結果もたらされたものを冷徹な筆致で描いたノンフィクションの白眉。 ●上5940円・下6380円

白水社

東京都千代田区神田小川町3-24
tel.03-3291-7811 ●価格税込

一五〇人が語り、一五〇人が聞いた
大阪の人生
大阪の生活史
岸政彦 編
大阪に生きる人びとの膨大な語りを一冊に収録した、かつてないスケールで編まれたインタビュー集。
第76回毎日出版文化賞・紀伊國屋じんぶん大賞2022
W受賞『東京の生活史』の姉妹版
定価4950円

筑摩書房

営業部 03-5687-2680
*定価は10%税込です。

<https://www.chikumashobo.co.jp/>

別冊太陽 日本のこころ 311

宮沢賢治

ほんたうの
さいはひは
一体何だらう

別冊太陽編集部 編

没後90年を迎えた宮沢賢治。いまだ謎の多い作品と37年の生涯を、当時の写真、生原稿、手稿をふんだんに掲載しながら紹介。時代を超えて生き続ける、その魅力に迫る。



A4変型判/168頁
定価 2750円/10%税込

平凡社

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-29

tel 03-3230-6573 fax 03-3230-6587

<https://www.heibonsha.co.jp/>

平安京の四〇〇年

紫式部や藤原道長らと出会える王朝絵巻
王朝社会の光と陰

瀧谷 寿著

伊東ひとみ編集協力

*四六判上製カバー 386頁 2970円

著者 藤原道長

男は妻がらなり 3300円*2刷

著者 藤原彰子

天下第一の母 3300円*2刷

著者 堀河天皇吟抄

院政期の雅と趣 3080円

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296 価格税込/宅配可

法政大学出版局

<https://www.h-up.com/>

ニューロ

新しい脳科学と心のマネジメント

N.ローズ, J.M.アビラシェド 著

檜垣立哉 監訳/櫛原克哉, 志水洋人,

野島那津子, 山田理絵 訳

脳科学や神経科学の発展は道徳や人格や精神疾患をめぐる生政治的な思考にどんな影響を及ぼしてきたか。脳と心の科学史の決定的寄与。 5720円

文学的絶対

ドイツ・ロマン主義の文学理論

Ph.ラクー＝ラバルト, J.-L.ナンシー 著

柿並良佑, 大久保歩, 加藤健司 訳

近代文学の理論であり発明であった雑誌『アデネウム』。ロマン主義が開いた絶対的な文学/批評の時代を哲学的に把握した歴史的书物。 6600円

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
☎ 03 (5214) 5540 / 表示価格は税込です

歴史文化ライブラリー

スポーツの日本史

遊戯・芸能・
武術

谷釜尋徳著 日本スポーツのルーツ、相撲、蹴鞠、打毬、外渡来の文化に改良を加え、独特の文化を生み出した歴史を考察。近代スポーツの到来までを見通す。 1870円 海

温泉旅行の近現代

高柳友彦著 いかに身近なレジャーとして定着してきたか。旅行形態や費用感、交通情報インフラなどの変遷を追い、その中で温泉地の対応にも言及。温泉旅行を通史的に描く。 1870円

おみくじの歴史

神仏のお告げはなぜ詩歌なのか

平野多恵著 謎の多いルーツを辿り、日本の社寺の風俗として定着した魅力に迫る。歴史を知り神仏のお告げと向き合い解釈すれば、おみくじはもっと面白い! 2090円

吉川弘文館 東京都文京区本郷 7-2
☎ 03-3813-9151 税込

2023年12月25日発行 年3回発行 第145号

発行所 人文会

〒113-0033 東京都文京区本郷2-20-7 みすず書房内

編集協力 アジュール・プロダクション

印刷 中央精版印刷株式会社

〈非売品〉